

地域科学部・研究科自己点検評価書【平成29年度】

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	地域科学部・研究科の取り組みを示すポンチ絵（公表用1枚）
基準4 学生の受入 4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	<u>入学者選抜の改善に繋がった取組</u> ○学部・大学院ともに、アドミッション・ポリシーは適切に定められている。学部ウェブサイトでも公開されている。 学部においては、アドミッション・ポリシーに沿って、小論文と面接を重視し、アドミッション・ポリシーに沿った内容が出題・対応がなされている。研究科においては、アドミッション・ポリシーに従い、多様な分野の入学試験問題を出題している。また、H30年度より英語に関する外部試験利用を可能にした大学院入試を実施した。（資料1、資料2）。 また、H29年度入試委員会において、併願先大学学部等の分布比較および学業成績と入試成績との相関分析を教学IRに依頼し、調査結果を分析した（資料3）。 ○学部の入学者は入学定員の1.05倍であり、適切な数である。研究科の入学者数は入学定員の1.0倍であり、適切な数である。	資料1：学部募集要項（アドミッションポリシー抜粋） 資料2：研究科募集要項（アドミッションポリシー・入試出題科目等抜粋） 資料3：入試分析データ	
基準5 教育内容及び方法 5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程） 5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）	<u>単位の実質化を図るための取組</u> ○1年次前学期から卒業論文作成まで一貫して、少人数教育を導入し、初年次セミナー及び基礎セミナーでは助言教員を専門セミナー及び卒業論文指導では指導教員を配置し、きめの細かい指導がなされている。また、基礎セミナー、専門セミナーなどは選択時に志望理由書を書き、専門を決めないまま大学に進学した学生も多い中、学生が自分の専門を考える絶好の機会となっている（資料4）。 学生が社会の様々な活動を体験する「社会活動演習」や、学部で学んだ内容をさらに現実の社会で調査・発見する「地域学実習」も全員必修で実施している（資料5、資料6）。 ○H28年度から設置された国際教養コース向けの科目を留学に必要な知識などを身に付けさせることを目的に1年次前学期から2年前学期に開講し、授業内で学生の留学準備を支援した。そのほか留学相談や留学説明会・ECCによるTOEFL対策講座などを実施し、きめ細やかな留学支援を行った。（資料4、資料7） ○地域科学研究科では、社会人、留学生が半数を占め、多様な院生が多様な研究を実施しているが、1学年の定員20名に対し、教員約40名で、大学院生一人ずつに指導教員が研究指導計画書を作成するなど、個人別のきめの細かい指導を行っている（資料8）。	資料4：履修の手引 資料5：FOREST2016（社会活動演習・地域学実習） 資料6：社会活動演習報告書（冊子）：地域学実習報告書（冊子） 資料7：国際教養コースガイダンス資料 資料8：研究指導計画書	地域科学部・研究科の取り組みを示すポンチ絵（公表用1枚）

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料
基準 6 学習成果 6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。 6-2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。	学習成果の向上に繋がった取組 ○H28 年度から設置された国際教養コースを希望する 1 年生の学生に対して、平成 28 年度に引き続き、国際教養コース向けの授業・カリキュラムについてのアンケートを実施するとともに、留学中の 2 年生の学生に対して、留学報告書の提出を義務付け、現状把握を行い学習指導等に活用した。（資料 9、10）。 ○授業評価、卒業時・修了時のアンケートでもセミナーや研究指導は高い評価を受けているとともに講義科目もおおむね高い評価を受けている（資料 11、12、13）。 ○H29 年度卒業・修了生の標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況等を確認した。（資料 14） ○H28 年度に卒業生・修了生の就職後の動向を把握する目的で実施した「企業訪問調査」の報告内容により、卒業後の学習成果と企業が求める能力の比較・分析及び検討を行った。（資料 15） ○社会人学生およびその指導教員に対して社会人学生修学状況実態調査を行った。調査結果により学生の希望を把握し、可能な対応策を関連委員会ですらに検討協議することとした。（資料 16） ○障がいを持つ学生の入学に対応して、平成 27 年度以降、入学後の支援措置（SA によるサポート、教員への周知及び FD の実施、駐車場への屋根の設置、サポートルーム（学生待機室）の設置）をサポートルームと連携し、当該学生の学修環境を整備するとともにきめ細かい修学支援を行った。	資料 9：国際教養コースの授業に関するアンケート結果 資料 10：留学報告書 資料 11：H29 前期授業評価アンケート集計結果 資料 12：H29 卒業生アンケート集計結果 資料 13：H29 修了生アンケート集計結果 資料 14：卒業・修了生入学年度別集計表 資料 15：企業訪問報告書 資料 16：社会人学生アンケート集計結果
基準 8 教育の内部質保証システム 8-1 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備さ、機能していること。 8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	教育の質の改善に繋がる取組 ○教育研究個人報告書（「教育」部分をリフレクションペーパーとして使用）を全教員が作成し、全教員で授業の改善に努めている（資料 17）。 ○関係者から教育の内部質保証についての意見を聴取する仕組みとして、授業評価、卒業生・修了生アンケート、企業訪問調査がある。企業訪問調査は、数年に一度、全教員により行われる。H28 年度には、本学部・研究科の卒業生・修了生を採用した企業の内 36 社を対象とした。（資料 15） ○教育研究活動等の状況の自己点検・評価を実施するために教育の内部質保証に関連する学部内委員会の委員を中心に組織する自己評価実施委員会を拡大整備した。（資料 18） ○自己評価実施委員会で H30 年に予定している外部評価に向け、過去の自己点検・評価の検証等を行い、評価項目等の検討を行った。（資料 19） ○本学部の教育に関する F D を 2 回開催した。 ・国際交流委員会委員が講師として教授会の全構成員を対象に国際教養コース 1 期生の留学準備から留学までにあった課題等や留学先での現状を発表し、それらの課題や対応方法などの意見交換を行った（資料 20）。 ・保健管理センターの堀田助教を講師に迎え、教員を対象に「学生相談の現状と課題等」の講演後、対応方法などの意見交換を行った。（資料 20）。	資料 15：企業訪問報告書 資料 17：リフレクションペーパー 資料 18：自己評価実施委員会規程 資料 19：自己評価実施委員会開催通知 資料 20：国際教養コースの留学に係る F D 開催通知・学生相談の現状と課題等に係る F D 開催通知

地域科学部・地域科学研究科の学生受入れ、教育の取り組み

学生の勉学意欲の向上、論理的思考力、課題発見力の向上などが大学生基礎力調査や基盤的能力調査で明らかになっている。

- 複数回のFD実施により学生支援のあり方や学部の状況共有 ⇒ 学部全体の教育の質を高める
- 授業評価や卒業生アンケート集計結果の教員へ報告 ⇒ 教員個人の授業・学生支援の改善を促す
- 数値に基づいた入試分析 ⇒ 受験生の動向を把握し、学部の未来を考える
- 専門セミナーのあり方について、適宜検討・改善 ⇒ 学部の特色・強みの保持に努める
- 卒業生・修了生の就職後の動向調査・分析 ⇒ 教育プログラムの点検・評価

更なる
Start

多様な
就職・進路先

大学での学びたい学術分野が
まだ決まっていないう受験生

大学での学びたい学術分野が
決まっている受験生

両方とも大歓迎

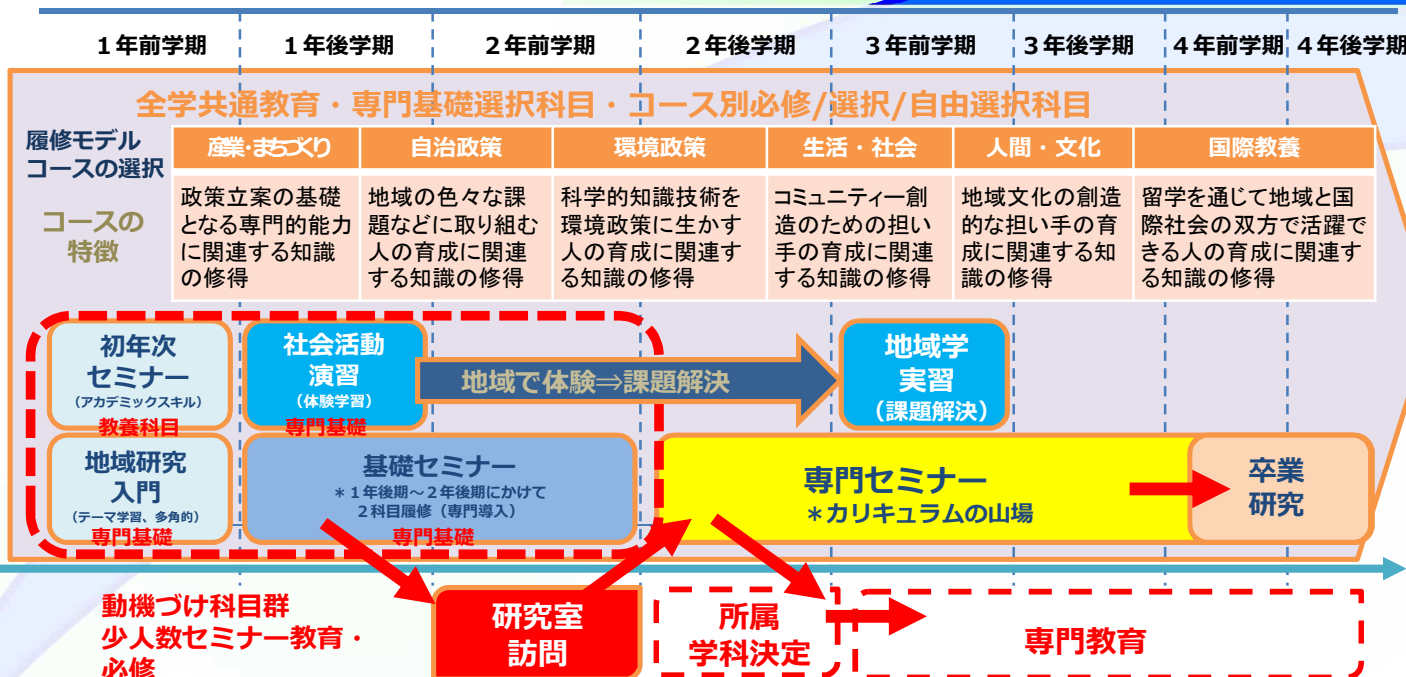
入学試験

小論文重視
推薦Ⅱ以外の
入試は全て小
論文を課す
(推薦Ⅱでは、
アドミッション
ポリシーに
従って面接を
実施)

カリキュラム

しくみ・体制

意図



学部からの進学者や社会人、
日本人や留学生が受験

多様な分野の入学試験問題
により、多様な人材を獲得

地域科学研究科

- 研究科生毎に指導教員が責任を持って研究指導計画書を作成し、きめ細かな指導を実施することにより専門性を高める
- 多様な専門分野の講義開講により、幅広い関心に合わせた履修が可能

1年～4年半期ごとの全員参加ガイダンス(履修指導)・専門セミナー紹介(解体新書:学生作成)
助言教員・教職員連携・開放教室・アセスメント・FD活動

課題意識の発掘、意欲の涵養

情報収集⇒検討(迷う)⇒
自己決定(選択)の繰り返し

専門性を高める

専門の決定・納得して専門に取り組む

Start